

追悼 Mike Menaker

下村 和宏[✉]

ノースウェスタン大学 神経学部、RMD Sciences Inc. 共同創業者

『私は 30 年前にお前に投資した。やはり私の投資は間違っていなかったようだ。お前が始めた新しい会社の話を是非聞かせてくれ。4 月になれば Charlottesville も暖かくなる。家族で遊びにこいよ、必ず！』これがマイクの最後の言葉でした。彼はもちろん自分が長くないことを知っていたし、だから私が電話をしたのだと、いうことも当然理解していたはずで、溢れそうな涙を堪えて電話を切りました。彼が他界する 1 ヶ月前のことでした。

マイクは科学者としての私の背骨を築いてくれた父親のような存在でした。私は大学時代にふとしたことから体内時計に興味を持ちました。その興味は日ごとに増していき、とうとうマイクに雇って欲しくないかと直接手紙を出しました。生来せっかちな性格の私は面白いと思ったことに挑戦しないでいることに耐えられなかったのです。驚くことに、彼は薄給でしたが雇ってくれました。今思えば奇跡でした。まさに彼の“私への投資”でした。

マイクの研究には“自然の美しさを解明する”という哲学が存在していました。中でも私が一番気に入っているのは、1972 年に発表された夜行性のゴールデンハムスターはどうやって 1 日の長さを測っているのか¹という研究です。季節繁殖動物であるハムスターは短日になると精巣が萎縮し繁殖不可能になり、長日になると元のサイズになり繁殖可能になる。しかし自然界で夜行性のハムスターは一日 16 時間も光を浴びることはない。この論文が導き出した答えは、1 日のうちには光に敏感な時間帯が存在していて、そこに光が当たれば動物は長日と判断し、そうでなければ短

日と判断する。その後、実際にその時間帯にたった 1 秒の光刺激を毎日与えるだけで動物は長日と判定してしまうということがわかりました²。季節繁殖性とサーカディアンリズムが密接に結びついていることを示す大変美しい教科書のような論文です。

マイクは尊敬する科学者でした。彼の見つけてくる研究の素材は常に一級品でした。優れた嗅覚を持っていました。私が彼のラボに入った 1990 年初頭は、分子生物学がリズムの分野に入り始めた時でした。マイクは常々こう言っていました。『分子生物学は非常にパワフルな道具だ。問題はこの道具を何に使うかだ』

“Hello! Kazu”

もうこの言葉は聞けない。涙が出るほど悲しい。しかし、マイクの哲学

『自然科学は自然の美しさを解明する学問である。』は私の心の中で永遠に生き続けている。

参考文献

1. Elliott, J. A., Stetson, M. H. and Menaker, M. Regulation of testis function in golden hamsters: a circadian clock measures photoperiodic time. *Science* **178**, 771-773 (1972).
2. Earnest, D. J., and Turek F. W. Effect of One-Second Light Pulses on Testicular Function and Locomotor Activity in the Golden Hamster. *Biol. Reprod.* **28**, 557-565 (1983).